

記事「馬瀬大阪支部長、菊地みえ同支部員の事故欠席」は「事故欠演」の誤植。

よもやま (敬称略)

○：薩摩琵琶演奏会 九月一日東京赤羽会館 (主催銀葉会) 小松の操一遠藤鶴東 桶狭間一立野岳朝 本能寺一鈴木鶴謳 白虎隊一仲川秀邦 神刀流剣舞術一宇佐美師範 彰義隊一古家絃風 城山一柏木篁道 川中島一大和田鶴道

○：赤毛城先生追悼邦楽琵琶演奏会 九月八日秋田市県労働会館(主催一水会秋田支部 秋田県琵琶連盟) 送別一桜田まさ子 別れの国歌一小畑好子 桜狩一竹内礼子 白虎隊一佐藤秋山 西郷隆盛一竹内信水 秋は逝く一高井新水 川中島一鈴木欣水 扇の別れ一村上旭玲 白虎隊一新開頌水 山科の別れ一保坂遼水 竜の口一星野雄水 七卿落一船木歌水 羅生門一石川仙水 六号潜水艇一鈴木岳亮 本能寺一松井灯水 彰義隊(録音)一赤毛城 別れの盃一熱海梧水 屋島の誓一酒田沢田征水 薄陽江一横浜新納岳窓 曲垣平九郎一新潟宮内玲水 湖水乗切一札幌二反田岳水

盛一古家絃風 形見の桜一池野谷吟岫 川中島一三木絃櫻 吉野落一鈴木鶴謳 小松の操一遠藤鶴東 武蔵野一立野岳朝 石重丸一吉成登城 乃木大将一栗原雨竹 旅順開城(上)一辻靖剛 同(下)一鈴木鶴阿 古曲あ

○：水藤錦旗演奏会 九月十九日東京日本橋第一証券ホール(主催同女史、錦琵琶一門) (昼) 形見の鐘一藤波桜華、新部桜水、水藤錦旗 石重丸一水藤五郎 城山一竹之内康夫 井伊大老一小島櫻舟 白虎隊一林藤豊 富樫の涙一西村錦風 黒田武士一箕村桜州 唐人お吉一富田桜園 坂崎出羽守一加藤錦陽 曲垣平九郎一沢田功水院の庄一鈴木桜陽 空海一小沢錦弥、水藤錦旗 淀君一津谷桜佳 戦艦大和一藤波桜華 兵士と母一新部桜水 福沢諭吉一水藤錦旗 (夜) 巖流島一中村錦道 新撰組一村木桜柳 五条の橋一津谷桜佳・立方永田詠混、宮坂水恵 薄陽江頭に立ちて一水藤錦旗 桜一弘沢雨水 時雨會我一新部桜水 唐砦一水藤、新部、藤波、木村雅趣雨・琴国重歌 栄美 五位鷲一都錦櫻、水藤、吾妻江風、木村・琴国重・立方中村冠子、中村恵子、中村勘次 耳なし芳一平野鉦水、石田脩水 名月逢坂山一鈴木密水 俊寛一淺野晴風 頼朝の娘一水藤錦旗

○：加藤錦陽、中島澤水初秋琵琶演奏会 九月二十一日三鷹市第一町会々館(主催西氏) 河内の宿一吳究静軒、菅公一宮崎洲香 重

あきと 暑い夏がようやく終わって厄日の二十日、二十一日も事なくすみ先づは御同慶至極●秋の夜長に庭にたゞずんで千草にすだく鈴虫が松虫に耳を傾けると生まれながらに之れという稽古もせず、よくもこんなによい鳴き声が出るものと感心すると同時に、米価やビールその他物価高騰のせち辛い生活を繰返している人の心をどんなにかなごませて呉れることか。虫なくや我れと湯を呑む影法師一普羅一●それを思うと二十年、三十年、五十年のキャリアを以て四絃五絃一すじに精進して来ながら未だに完成の域に達することが出来ない私らのような琵琶人は誠に面はゆい次第である。

昭和四十三年十月一日発行(非売品) 編集者 植村 寛 水 発行所 京 絃 社 京都市北区衣笠西馬場町二九 和田第一ビル 二〇一号 電話八三二六 二八七六番 内線 二〇一番

京 絃

第一七二号 京 絃 社

大楠公と明治百年

大石 義 雄

大楠公は神戸湊川神社の祭神である。湊川神社の創立がきまったのは明治元年で、今から百年前のことである。明治百年を語るということになる矢張り大楠公を忘れることが出来ない。

明治維新の基本精神は王政復古の精神、今日流の言葉でいえば日本本来の國民統合の國家体制復活の精神であるから、之を守らなければならぬという信念で生き、之を守る信念のもとに一旗あげて戦死した楠公の精神は、即ち明治維新の精神に繋がるわが民族精神そのものであり、それはわが國を支える精神的基礎である。だから楠公精神は只過去のものではなく、今日のものであり、また明日のものなのである。いうならば我が國が前進するための精神的足場なのである。明治百年にあたり特に我々が改めて楠公精神を思い起こすことの必要なゆえんである。 徳川光圀が建立した「嗚呼忠臣楠氏之墓」という簡単な基礎銘がよく楠公精神の偉大さ

を伝えているが、國家の精神的基礎研究の第一人者、今様北畠親房ともいうべき津津彦氏は、楠公精神の偉大さを次のように説いて居られる。

楠正成公の名をあげれば誰でも忠誠無双の精神を想起する。日本人が忠誠ということを考えれば、必ず菊水の楠公を連想する。日本人は元來忠誠心の強い民族であつて、楠公以前にも以後にも無数の忠烈な先人の歴史を有している。だが少くとも茲數百年來日本人は楠公をもつて日本人の忠誠心の最高の典型として信じてきた。楠公の忠誠無双な志を書いたものとしては、古くから「太平記」の名著があり、その後の學者の史論もある。しかし、それが広く國民的に強く信ぜられるようになったのは、水戸光圀が湊川の墓所に碑を建て自ら筆をとつて「嗚呼忠臣楠氏之墓」の八文字を刻し、その碑の裏に有名な朱舜水の名文を刻せしめた元祿の頃からのことであらう。(中略)楠公の精神は、功業を樹てるとか後

世人を感動させることにはあつたのではない。忠に殉ずること以外に何もなかつた。そのためには自らを永遠に埋没して悔いぬ純粋さであつた。名が残らないでも、その功業が残らないでも、忠に生き忠に死すを本望とする処にこそ湊川の精神がある。この湊川の精神が日本の國を黙々として守り、支えて行く有名な無名のあまたな日本人の忠誠心の典型として仰がれる。(「大楠公」二十九頁以下)

以上は津津彦氏の楠公精神説明の要旨である。私はこの楠公精神は即ち日本民族精神の核心を突いたものと思ふ。いうならば無私の立場民族の生命を守る精神の純粋性と高貴性を説いたものであり、この精神の支えによって民族、國家の生命は生き続けて行くことが出来るものと信ずる。 しかし、このような民族精神だの、楠公精神だのといふことは、今どきの合理主義者や功利主義者には仲々理解し難いことだらう。目先の自分の為役に役立つことにしか人生の価値を認めようとする思想からすれば馬鹿げたことかも知れない。とは云ふものの、どのようなる人間も、どれかの民族の中でどこかの國民として生きて居る事實は、何びとも否定出来ない。だとすれば、その民族の生命、祖國の生命は何によつて支えられているかは、避けることの出来ない問題で、云うならば楠公精神は祖國支えの精神なのである。(大学教授)

「平家物語」の物語(十九)

義経夜討ちを強行

その夜の夜半ばかり、源氏の勢一万余騎、三草の山の西の山口に押寄せ、関をどつとぞつくりける。平家の兵共餘りにあわて騒いで、弓とる者は矢を知らず、矢取る者は弓を知らず、馬に当てられじと皆中を開けてぞ透しける。

平家壊滅の序章いよいよ始まる。時、寿永三年二月、所、三草山のある今の兵庫東加東郡社町山口周辺。鶴越(ひよどりごえ)から山道十数キロ丹波寄りのこの地点に、平家は中将資盛、少将有盛らを総大将として三千余騎が陣どつていた。一方、源氏の軍勢は木曾義仲を打取って入京後、僅か半月足らずのうちに平家追討の院宣を受け、二月七日に福原の平家を総攻撃すべしとタイムスイッチをかけた。これに先立つ四日、義経の揚手勢一万余騎は蒲冠者範頼らの大手軍五万余騎と別れ、丹波路を亀岡篠山へ駆けぬけ、夕方三草山の麓山口と小野原(今の兵庫県多紀郡今田町)に着いた、二日行程の山道を一日で通りつく強行軍。しかし疲れをいやすどころでない、その夜八時、十数キロ隔て、控える平家軍に早くも夜討をかけた。「合戦は明日だ。」と、おっとり構えていた平家軍は全く寝耳に

水、この奇襲に蜂の巣をついたような慌てふためきようで忽ち散散らされた。この合戦の舞台一三草山は国鉄山陽線の加古川駅から春はレンゲと麦畑が織りなすツートンカラーの播州平野を北上し、釣針と灘向の酒造米の産地として知られる社町のほゞ中心部にある。標高四百二十メートル、道らしい道もない。鳴く野鳥の声を聞きながら茂みを分けて尾根に出ると、摂津丹波播州の境をなす背後三方に御嶽の霊峰が望まれる。この御嶽山の頂きに建つ清水寺で、嘗て武蔵坊弁慶が修業したとか。

前方の明石、加古川方面には丘陵に交錯して豊かな田野が広がる。このように山岳、丘陵、平家の入りこんだ周囲の地形からみて恐らく三草山一帯は、戦略の上で絶好の要害だつたに違いない。この山野でその昔弓鳴りを響かせ矢風をたて、騎馬をおどらせたことだろう。天狗の申し子かと云われ、敵の虚をつく奇略にたけた義経の「続けよ、者共」の声に呼応し、坂東武者が白刃をふりかざし、奔流のように馬群をもみながら斬り込んだことだろう。

平家には状況判断の誤りと油断があった。四日は故太政入道の忌日だから、源氏も仏事を十分に営ませて呉れるだろう」と判断したのが甘く、呆気なく攻め込まれてしまった。一旦崩れ出すともう逃げ足は止まらない。忽ち五百余人が討取られてしまったという。社町には源平の古戦場にふさわしく、今も

名残りの地名をとどめている。たとえば三草山の奥にある平家谷、又は御所ヶ谷、大正十二年発行の加東郡史によれば、平家方の陣所だったところ。只越坂一源氏の軍勢が小野原の在所から火をかけて攻め寄せ、四キロの山道を難なく越えたので斯く名付けられた。又同町下久米の山中には黄金塚があり、中将平資盛が敗走の途中香器を埋葬したと伝えられる。このほか源氏の軍勢がこの地方に勢力を張った多田源氏に、平家追討の力添えを求めた書状も地元山氏神社に奉納されている。町では最近の義経ブームに乗って、三草山を古戦場廻りのハイキングコースにと考えている。しかしこの辺り、つわもの共が血みどろの戦を繰上げたとは思えぬ程閑静な山野で静けさを破るのは野鳥と蟬の声くらいのもの、吉川英治氏は新平家落葉集で「いかに大量戦没の罪は山野に無く人の人意にあるか」と之を地獄とするのも浄土とするも人間の業だ」と云っている。見渡す限りあるものは平和な山河である。

狂酔亭漫録(四十一)

古谷 竟水

前回は赤穂藩庫残金の処分に触れたが茲で当然藩士に対する個々分配の問題が起こる。大石は元来無慾恬淡の士であるのに反し、一

藩の経済を掌握する大野九郎兵衛が強慾無比と来ているので始末が悪い。

平等主義の大石は、高祿者は自ら餘裕あり、小祿者は手許も不如意の事なれば、相互扶助の意味も含め、祿高の高下を問わず同額平均に割当て度いと主張したが、大野は之を肯ぜず、高祿者と小祿者には夫々分限あり出費も同一でない、その為平等分配とは思ひも存らず却つて不公平になるとの異論を唱えたので、之に和して俗論党の本身者は概ね賛意を表し、忠節の小身者も我田引水的の私慾主張を潔しとせず口を噤んだので、結局大野に賛成多く祿高に対し比例配分する事に落着いた。

全額に就ては在庫金三十萬兩等と途方も無い事を記している書もあるが、大体の見当では、前回記載の諸寄附や藩の後始末の準備金等若干を控除し、残金約一萬六千兩程を祿高百名に付き二十四兩の割で配分したらしい。

現今の物価から推定すれば一兩は五万円位に相当するので、百石取の侍は百二十万円位貰った事になり、百石侍が現今の課長級程度と仮定すれば、退職金に比し三分の一以下である。此の配分に就いては種々資料もあるがさして興味も無いので此の程度の略説に止めるが、札幌奉行勘定方の岡島八十右衛門から現金を渡された大石はそのまま押返し、自分はその金を受けずともさまで困らぬ準備がある。此の金は諸士の分配金に御組込み下さいとて受取らなかつた。彼は祿千石であつたから現今の約千二百万円程になる。此の辺にも大石

の偉大さの片鱗が見えるようである。然るに大野は分配金を受取つた上、まだ不満を抱く折も折、奉行岡島の配下某が先般藩札引換の折、現金の一部を持逃げした事件を知り、之は岡島も同腹の悪事だと罵つたので、正義の士岡島は「籠城と聞けば腰を抜かし、分配には所得を争う彼こそ祿盗人である、直ちに彼の首を刎ね不忠の輩の戒めにせん」と大野邸へ押掛け「岡島八十右衛門、お尋ね申度儀あつて参上致した、是非共ご面会を」と只ならぬ見舞に、大野は一度は居留守を遣つたが、再参推参して遮二無二押通ろうとする。絶体絶命の大野は、伴都右衛門と密議の上、自分は女乗物にて夜陰に乘じ逐電し、伴も女房を連れ姿を消したが、無惨にも乳呑児の泣声を憚り之を棄てて逃亡したのである。

岡島の兄原惣右衛門は先般城中大評定の際大野に一喝を加え退散せしめたのだが、此の兄弟は勿論四十七士の中であつて、揃いも揃つて誠忠の快男子である。序でに記するが、貞享二年水戸光圀が大日本史編纂の資料収蒐の為、学者を関西各所に派遣したが、その中の一人が周防徳山毛利侯方で接伴役の町奉行大野九郎兵衛に出会つていたので、其後十七年松の廊下の変の後、赤穂の仕置家老は前記大野が浅野侯に取り入り立身したものと判明した。

此の大野の娘の一人が備中の侍梶原某に嫁し、三人まで子を設けたが、赤穂開城後大野の逐電を知り、此の梶原は不忠の士の娘を伴

わんは士道に非ずとて妻子を離別した。併し妻や子には罪は無く、而も行方もない身を哀れみ別に一戸を構え下婢を付けて終生養つたが、自分は再び足を向けず清潔な独身生活を続けたとは、閑田次筆という書物にある。義あり情あり愛ある真の武士も居たのである。さて順序として愈々赤穂開城の話に移るが余白も乏しいので次号に譲る事にする。

赤穂藩大石邸跡の内蔵助遺愛の垂糸桜の子孫は明治末頃までは残っていたらしいが、現在の存否は私は知らない。此の桜に対し、頼三樹三郎の題詩がある。曰く
白桜千古幾開落 義士遺栽香自高
為想燕都復舊日 雪華爛漫滿弓刀
(未完)

切抜帳から(三三)

平井 春嶺

終戦の真相(一一)

八、原子爆弾の広島攻撃と
ソ連の宣戦布告

八月六日午後広島からの連絡によってその日の朝、広島が何等か強力な爆弾によって攻撃を受け、全市壊滅したという報告に接したのでありますが、その夜正確には八月七日午前三時頃書記官長室の電話が鳴りました。

当時私(迫水久常氏以下同じ)自宅は四月十三日の空襲で、官舎は五月二十四日の空襲によって焼失してしまいましたので、私は首相官邸の書記官長室に簡易寝台を持込み着のみの生活をしていたわけでありました。五月二十四日の空襲では皇居が炎上しました。空襲が終りました後、鈴木総理が首相官邸の屋上から長い間遙拝して居られたお姿は今も目の前に残って居ります。

私は受話機を取り上げますと、同盟通信社の長谷川外信部長よりの電話でありまして、今桑港の放送傍受によって得た米国のトルーマンの大演説によると、広島攻撃は原子爆弾であると発表して居るといふのであります。私は全く愕然と致しました。まさかと思つたことが起きたのであります。

と申しますのはその前年の秋、実は高松宮の台臨を仰いで大倉男爵が、湯川、仁科、水島等の日本の有数の物理学者を集めて、原子爆弾に関する懇談会を開いたことがあります。この会合に於いて湯川博士初め一同の結論は原子爆弾の原理は既に世界周知であるが、ウラニウム原子濃縮(ENRICH)の技術の完成には尚数年を要するであろうから、この戦争が今後五年十年続けばいざ知らず、当分は米國も作り得ないのであります。とうとうとうとありました。そういうわけで米國が原子爆弾を実際に使用したということは、ほんとうに驚天動地の脅威でありました。

当時の常識では、今度の戦争に於いて原子

爆弾が実現したら戦争は終りである。原子爆弾を有する方の勝利に於いて戦争は終りであると信ぜられて居りました。

従つてこのトルーマン大統領の発表は日本に一大衝撃を与え、特に著しい事は、あれほど戦争継続に熱中していた軍の中にさえ「斯くなる上は日本の軍隊は負けないが、日本の科学は負けたことが明かになった以上、一日も速かに戦争は終了すべきである」と議論が生じたことでもあります。

京絃社移転

今般左記に移転致しました
昭和四十三年十月一日
京都市北区衣笠西馬場町二九
和田第一ビル 二〇一号
電話 八三三六 八二八七六番
内線 二〇一番
市電「金閣寺前」下車 徒歩五分
(市バス)

八月七日朝閣議を開いてこの対策を議しました。大勢はかくなる上は速かにボツダム宣言を受諾する方式によって戦争を終結すべしというのでありますけれども、実は原子爆弾出現ということが全く意外でありましたので、或は米國の詐術ではないかと疑うものもあり、ともかく一応実地調査してからという話になり、仁科博士等の専門家を現地に急派致しました。

その報告は翌八月八日夕刻到着、仁科博士は私に対し「残念乍ら原子爆弾に間違ひありません」と涙を流して報告されました。

鈴木総理大臣はこの報告を得て私に対し、明日朝閣議を開き自分から終戦に関する意思を表明するから、その用意をするようにとの御下命がありました。

私は直にその手続をとりますと同時に、その閣議に於ける総理の発言についての原稿を用意致しました。総理の公式発言の原稿はいつも私が用意するのでありますが、総理は大體一分間に二百字お話しになるような速度でありましたから、若し十分間の発言予定ならば、二百字詰原稿用紙で十枚を用意しなければならぬわけでした。それには少くとも二時間程かかりました。それで私はよく総理に申し上げて笑つたのですが、どうも総理も二十四時間なら、私も一日二十四時間というので分配不公平のようですと申し上げていたので

この総理の原稿は私も仲々大変でしたが、特に困つたのは国会のときでした。質問者の質問に対して、総理が答えられるときも、メモに答弁要領を認めて、総理に差し出すわけですが、実は総理は耳が遠いので質問がよく聞き取れぬらしいので、私は質問要旨をメモにしてそれと同時に答弁要領のメモを差上げることにしました。

或時私は議場ではどんな風にお聞きえになりますかということをお伺いすることがあります。

深みゆく秋の洛北(上)

琵琶歌大原御幸悲曲を偲ぶ

辻 旭 城

洛北八瀬へは京阪三条から京都バスで約十分、または出町柳から京福電車で約十五分で行けるところにあり、比叡山ドライブウェイができるまでは比叡山観光の表口であった。今では閑散となつただけに、琵琶の平家物語哀史が一層深くしみじみと味わえる。

記者が訪ねた大原は所謂「八瀬大原」と併称された幽境である。ここは高野川に沿い、昔は裏日本から京都にのぼる要路、若狭街道上の集落地として発達した所で、昔から大原女で名高く、大原の女性は、紺衣に御所染めの帯をしめ、白い脚絆、甲かけをつけ、縫模様の手拭を頭にかぶり、花や柴などを頭上に載せて、「花はいりまへんかなー」、柴はいりまへんかなー」と京の街にきて売り歩いている。

大原は史跡にも富んでいる。小字小野には文徳天皇の皇子惟喬(これたか)親王が隠栖されたという旧跡小野宮や墓石、大原来迎院町には三千院、融通念仏宗の来迎寺や勝林院(大原寺ともいう)この勝林院には後鳥羽、順徳両天皇の大原陵、また大原草生町(くさおちよう)には後白河法皇の琵琶歌、大原御幸、で有名な寂光院(じゃくこういん)、その

院徳子の御陵)等があり、このほか大原念仏堂で知られる浄土宗の阿弥陀寺、歌枕として名高い瀧清水(おぼろのしみず) (寂光院の西二〇〇米)音無滝などがある。

三千院は大原のバス停から約七百米のところであり敦賀街道の右が登り口、山際には菓ぶきの農家が立ち並び明治時代の姿がうかがえる。三千院までの山道は樹木のトンネルで、ときどき名も知れぬ小鳥の鳴き声は深みゆく秋を一層淋しくしている。

このトンネルを抜けると、石段の上に三千院の表門が見える。門をくぐると重文の本堂がある。こゝは往生極楽院と云って、恵心僧部の妹安養尼の庵室の跡と伝えられている。ご本尊の前に坐っているのは、観音、勢至の二菩薩で、よく見れば日本式の正坐をしている姿に浄土教文化の女性的な感じが美しく流露している。二菩薩の後ろに控える本尊阿弥陀仏は、上品下生(じょうほんけしやう)の院相を示して跏趺している。この三尊一座の組み合せは、藤原時代に盛んに信仰された弥陀の来迎を現した彫刻として貴重な遺産とされている。

琵琶歌、大原御幸、から外れてしまつて申訳ないが順序として書かねばならないので悪からず御了承願つて、さて有清園、聚碧園などの庭を拝観したあと、三千院を出て呂川まで戻り、東へ道をとると来迎院がある。

魚山という山号があり、慈覚大師円仁が唐から帰つた後、唐の天台山を手本として堂宇

そうしますと総理は笑い乍ら「実はね、たぐさんの蛙が一べんに鳴いているような風いきこえ、その間に単語が聞こえる」といわれ一同大笑したことがあります。

八月八日の夜は徹夜のつもりで私は九日の閣議に於ける総理の発言についてほんとうに一生涯原稿を書いて居りました。

翌九日午前三時頃と思ひます。卓上の電話がなりました。私がとり上げますと、同盟通信社の長谷川外信部長からの電話でありまして、サンフランシスコの放送するところによると、どうやらソ連が日本に宣戦を布告したらしいといふのであります。私はそんな馬鹿なことがあるかと思ひ度も「ほんとか」と反問しました。残念ながらそれは事実でありました。

その時の私の心持は到底言葉では言い表わされません。体中の血液が逆流するといふか、憤怒が体中を駆けめぐると申しますが、ほんとうに怒の極度でありました。

その当時日本とソ連との間には中立条約といふのがありまして、それは昭和二十一年三月まで有効であるのです。この条約では両国共お互いに決して戦争には訴えないといふことを固く約束して居たのです。

この条約があつたので日本は独逸軍がソ連を圧迫してスターリングラードにおいつめたとき、独逸から日独伊三国同盟によつて是非ソ連の後から討つてくれといふ要求があつたのに拘らず遂にソ連には戦争をしなかつたのです。しかも先に申し上げました通り、その頃日本はソ連に対して日米戦争の仲介を依頼しその返事を待っていたのです。

(以下次号)

を建てたが、爾来幾星霜建造物は腐朽したの
で同じ場所に融通念仏の初祖である聖応大師
良忍が、嘉保元年に再興した。

この来迎院は梵唄声明(ほんばいしょうみ
ょう)という仏教音楽の本源地であるという
ことを聞いたほか、もとは浄蓮華とか、蓮葉
善遊、遮那など一流の諸院が境内に連つて隆
盛を極め、院内の各員は昔から宮中御法会参
勤の主職を勤めたという名刺であったが、今
は寂れていた。(以下次号)



薩摩琵琶四明会の

恒例一泊旅行

四明会では恒例の一泊会を今年も明治百年
にちなんで明治村見学を兼ねて行うことにな
り八月四日十一時名古屋駅集合、山田岳蔵氏
の案内で名鉄にて犬山遊園の田中屋旅館に旅
装を解き、少憩後犬山城の天守閣に上つて帰
館、三時半演奏開始、元冠一平井春嶺、明治
百年一野末晃華、金州城一石見月、嗚呼乃
木將軍一伊藤晃嶺、乃木夫人一青島晃苑、義
貞参内一鎗田岳道、城山の月一染谷晃岳、小
松の操三段一山田岳蔵、城山一岡部錦蝶、旅
順口一小野鶴彦、薩摩義士一山之内兼光。こ
ゝで夕食、飲む程に酔う程に隠し芸が次から
次へ飛び出し、栗本翁が豊録として剣舞を舞
えば平井氏は小唄で粋な咽喉を開かず、岡部

女史が男顔まけの元氣な詩を吟ずれば山之内
氏は歌謡曲を披露、その他の方も硬軟とり交
ぜ和氣霽々裡に十時終寢、静かに寝についた。
翌五日早く起きた人はもう琵琶を弾じて幽
玄な音色を聞かせていた。朝食前に近くの瑞
泉寺、臥竜寺、成田山名古屋講、竜泉院、善
光寺等を観光し、その間名匠杉本氏のカメラ
が盛んに活躍。九時半発のバスで明治村へ行
く。よくもこれだけ集めたものと感心させら
れる明治時代の建物、教会、西郷従道邸、夏
目漱石邸、異人館、燈台、衛戍病院、三重県
庁、弁慶号汽船車、京都を走っていたチンチ
ン電車等々その他数多く、明治の御代に帰っ
た感深く誠に懐かしい限りであった。こゝで
は写真プロの杉本氏は勿論、長谷川、奥定、
伊吹、平井の各写真天狗連が盛んにシャッタ
ーを切っていたが、出来ばえは結果を見るま
でお楽しみというところ。(いやこれは失礼
々々)

新作 石橋いしはし 柿本錦城作
寂照法師と号せしが
此たびはとて遙々と
只今到着遂げにけり。
底さえ知れぬ谷に轟き
伏して望めば目も眩れて
身の毛もよだつばかりなり。
人をば待ちて石橋の
いわれを聞けば遠き古え
天地と共に開闢し
懸りて長き二千丈
得渡り難くましてげに
渡りし人の例しなし。
御覽候え西の空
秀づる嶺は清涼山
文珠菩薩の浄土とて
簾籠翠窓藤澄み渡り
七色の虹掛けたるは
入り日の粧い雨後の姿
待たせ給えや程もなく
影向ありて奇特をば
頭わさんとて老人は
霞の如く消え失せたり
既に夕陽傾きて
笙歌聞こゆる折しもある
不思議や石橋花満ち花薫り
獅子団乱旋の舞樂の砌
たいきんりぎんの獅子頭
打てや唯せや牡丹の花房
枝に戯れ伏し転び
げにも上なき獅子王の勢
靡かぬ草木もなき時なれや
黄金のずい現れて
千秋万歳と舞い納め
獅子の座にこそ直りけれ。
石橋の解説は次号に掲載

活躍する 八月四日朝七時神戸市須磨
清水史水氏 の鉄拐山頂道場に於ける須磨
百寿会の親睦会席上清水氏は自作の「水戸勤
王隊の最期」を演奏。百寿会員中には三人の
水戸勤王隊士の後裔も居られて感銘一しおの
ように、朝山の靈氣に打たれながら明治維新
当時を偲びつゝ一同謹聴した。また九月十五
日朝同道場で鉄拐登山千回及五百回表彰式が
あり、席上自作「百寿会鉄拐山道場の歌」を
演奏し、同日午後須磨公会堂に於ける敬老会
にも劇、無踊等に伍して右道場の歌を演奏好
評を博した。

京都琵琶協会 台風一過のすがすがし
ら市内徳雲寺に伊吹正陽、戸倉旭嶺、若宮旭
登、吉野洲水、田中鶴水、中島真水、梅原旭
暉、矢吹華水、古谷寛水、木村維水、美登里
進水、水内媿水、平井春嶺、杉島錦鳳、植村
真水の各流派会員参集、例の通り各々一曲宛
研究演奏のあと夕食を共にしながら諸種の報
告や打合せ、芸談に花を咲かせて八時半散会
した。

三美会琵琶祭 十月六日(日)正午一六時京
演奏大会 都市南区東寺境内新築洛南
会館、京阪神各流派代表者競演。
京都琵琶協会 十月十二日(土)午後一時
十月定例茶話会 市内千本出水西上ル徳
雲寺(電話一六九五二番)、当番幹事田中
鶴水、吉野洲水両氏。同好者の御来遊歓迎。
錦心流一水会 十月二十六、七両日東京
全国大会 社界福祉会館ホール、全国
三十数支部の代表出演。
京都琵琶協会 十月二十七日(日)正午一六
秋季演奏大会 時京都島原旧遊廓歌舞練場
明治百年及び協会創立二十周年を記念し京阪
神、和歌山の各流派名手が明治以後の事蹟に
ちなんだ曲目のみを選定して競演。
筑前旭会全国大会 十一月二十二、三両日
福岡電気ホール。次号詳報

針谷錦古氏 高崎の針谷氏は錦心流琵琶
の活躍の名手として全国的に有名で
あるが同時に錦古流詩吟の宗家で県下に数支
部を設けて活躍されている。八月十五日の終
戦記念日高崎市の群馬音楽センターに於ける
呉戦没者追悼演奏会には琵琶本能寺、琵琶針
谷氏、剣舞白井清洲氏の外合吟九段の桜と剣
舞付合吟白虎隊が昨夏京紋社旗布の揃いのゆ
かた姿で針谷門下生によって三千人の参集を
魅了し、又八月二十五日には高崎市福田経済
研究会館(設立者福田自民党幹事長)に於て
針谷氏主宰の納涼吟詠大会開催、百十八題の
詩吟剣舞の間を縫って川中島一玉村支部、金
剛石一高松支部、小督の局一藤岡支部、桜花
の詩一新町支部、白虎隊一吉井町第一支部が
それぞれ琵琶入で合吟し最後に針谷宗家の琵琶
囃小野訓導で幕を閉じ琵琶の真髄を遺憾な

京都琵琶協会 九月十四日午後二時から
臨時茶話会 会員矢吹華水女史宅で開催。
来たる十月六日三美会琵琶祭演奏会の最後
の打合せや同二十七日協会主催の秋季演奏会
に就ての協議、門下生合奏練習などのあと夕
食後解散した。出席者、平井、木村、矢吹、
中島旭、田中、戸倉、伊吹、植村の諸氏。

馬瀬槍水氏(一水会大阪支部長)(〇七二
九)〇一四八四番開通。
木村維水氏(京都琵琶協会) 勤務先の
電話(03)一三一八六番に変更。
前号「一水会大阪神戸両支部共催ゆかた会」